

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300980		
法人名	医療法人社団井上会		
事業所名	みんなの光		
所在地	熊本県熊本市南区城南町今吉野806-1		
自己評価作成日	平成27年1月	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成27年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小高い丘の上にあるホームからは眺望がよく、ホーム全体 桜の木に囲まれ、春になると 見事な花が咲きほこり、すぐ側で春を満喫出来ます。ホーム内はリビングや廊下など共有スペースが広々としていて、全てがバリアフリーになっている。更に、生活する上での行動範囲内には全て手すりがつき安全である。入居の際、一時金もいらず、料金が安い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

* ホームは母体法人が運営する病院の敷地内に立地し、ホーム長は看護師資格を持っていることから、必要時・状態急変時の受診も容易であり、入所者と家族の安心となっている。
 * ゆったりとしたスペースのリビングの窓からは、田園風景の眺めが広がり、屋内にいても季節の変化が感じられる恵まれた環境である。
 * 職員は、入居者一人ひとりの生活習慣の違いへの対応に戸惑いながらも、理念の一つに掲げられている「その人らしい生活の大切さ」を拠り所とし、困った時は職員間で話し合い、入居者の快適な暮らしの支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一ヶ所だけでなく目に付く所に「理念」をかかげ日頃より意識付けし、申し送り時や勉強会時に方針や目標を話し合い「理念とは何ぞや」を職員に理解してもらいそれに沿ったサービス提供をしていることを確認し合っている。	ホーム長は25年3月の就任以来、「理念」の大切さ、それに基づくサービス提供について、機会あるごとに職員と話し合い、日々の共有に努め、意識の統一に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としては、法人全体で小学生の夏のキャンプや幼稚園児の慰問を受け入れたりされる中に参加させてもらうとともに、ホーム単独では近隣の小学生の慰問を受けたり中学生の一日体験学習を行ったりしている。ホームの東側は住宅地の為、洗濯物を干す際、挨拶など積極的に行っている。	地域との交流は、隣接する系列の老健施設が主体的に取り組んでおり、そこで開催される「夏祭りやどんどや」等の行事に、入所者と職員が参加することでの交流となっている。しかし、26年度からホームの運営推進会議に区長や民生委員等、地域代表の参加が得られるようになり、ホームと地域との直接的な交流が少しずつ始まりつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の偏見や差別をなくす事の重要性を認識し、運営推進会議などに地元のお世話をされる方ばかりでなく、近隣の区長さん等に出席を呼びかけ理解して頂き、地域貢献につながる様努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回会議を開き、ご家族も話しやすい様一回に2家族以上参加してもらい、近況報告やサービスの実践等について報告し更に区長、民生委員の方、ご家族の方に意見要望をお聞きして話し合いを行い、ご希望にそったサービス提供が出来るよう努めている。	運営推進会議では、毎回、ホームの理念と、運営推進会議の目的について記載した資料を配布し、ホームの姿勢と会議の意義について委員の理解を得るための努力が行われている。また、地域代表の委員からも会議の在り方や、地域の情報提供等、前向きで、建設的な意見が出されており、今後、会議を活かした取り組みが大いに期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当法人へ担当者は総合支所へ赴き相談等もしている。又、支所の担当者が代わられて当法人の挨拶があった時はグループホームに寄って見学して頂いたり現状説明等を行っている。書類提出の際は出来る限り時間をつくって郵送せず持参し、ご挨拶する様努めている。	熊本市本庁、南区役所、城南町総合支所等、業務内容ごとに担当部署に赴き、挨拶を交わし、協力関係構築に努めている。また、包括支援センター主催の研修や、イベントには積極的に参加し、地域住民のためのホームとして存在を示す機会として活動している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の11項目の具体的な行為を理解しケアを実践している。玄関の施錠は夜間のみであり居室のカギも昼夜とわず施錠していない。	隣接する老人保健施設で定期的に行われる全体勉強会の一環に「身体拘束」があり、ホーム職員も全員参加することで、学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や院内研修で学び、職員一人一人が注意する様心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人の支援相談員から制度について学び、利用者の状況を話し合い必要性の有無を話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に印をいただく際、必ず内容を詳しく説明し、同意を得る事を基本としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議の他、家族訪問時は入居者様と会われた後、事務所に来ただき近況報告する際、意見要望もお聞きしている。又、苦情相談窓口も設けておりご意見箱も設置している。	利用者家族には、少なくとも月1回の面会を依頼しており、その際、入所者の暮らしぶり・身体状況の変化等について報告し、家族の思いも聞き取る機会としている。また、今年度から、運営推進会議に家族の参加を依頼しており、意見・要望が出しやすい環境整備に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの中などで発言する機会を設け、実態を把握し提案を受け入れるよう心がけている。	業務上の意見や提案は、申し送り時等に伝えられている。しかし、職員ひとり一人の思い等を聞き取るための、時間は十分では無いように覗えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームは家庭的な雰囲気をモットーとしている為、自主的に早出や居残りをしお互い協力し合う姿勢や、急な欠勤にも対応できるような状況を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やフォローアップ研修等に参加し、また院内での介護研修にも参加し、ホーム内においてもその都度実技指導等を行いレベルの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や講習会などに参加し、他のホームの職員と情報交換などを行いお互いにサービスの質の向上を図るよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症で意思の疎通が難しくても、しぐさや表情を観察し、傾聴する事で安心を得てもらい本人の意思を引き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や要望等を含め、話に傾聴し、何でも言いやすい関係づくりが出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な時は併設の病院や老健施設等の紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣替えの時期には一緒に衣類の整理をしたり洗濯物を収納する時は一緒になおしたりして親近感や信頼感を持ってもらうよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで色々な相談や提案をお互いに受け、話し合うよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者を大切に、面会時間も制約していない。出来る限りゆっくり入居者様とお話して頂けるよう、お茶とアイスをお出して面会人にくつろいでいただいている。	子どもや兄弟姉妹等、家族の面会が主であり、知人の来訪や、馴染みの場所への訪問等は殆どないよう見られた。家族からの情報だけでなく、本人との会話の中から漏れ聞こえる馴染みの人や、場所など、行ってみたいところなどを知り、支援の方法を検討することも大切と思われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の時間やペースを大切にしながら、とじこもらないように声かけし、リビングでの時間を多く持つよう努めている。又、お互い気の合った方を同テーブルにして、更に会話が進まれる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院への入院時は必ず見舞いに行き、不足品等に気遣い、遠くなれば他の病院へも見舞うよう努めている。家族とも電話をとり合い状態の報告等もとり合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望、意向に出来るだけ傾聴し、それに添う様に努めている。困難な場合にも家族に協力して頂き、本人の思いなどを引き出すよう努力している。	夕暮れになると「家族が気になるから帰りたい」「荷物は宅急便で送ってよかるか」「リヤカーを持ってこようか」等の発言や、枕元に履物が置かれていたりする状況から、家族への思い・自宅への帰宅願望を読み取り、思いに沿う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から色々と情報収集したり、家族にたずねたり、又居宅のケアマネジャーから今までの生活の情報を得たりして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を充実し、活用し、職員全員が情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活態度や会話の中で気付いた事や感じた事、家族から聞いた事などを話し合い介護計画に反映するよう努めている。	新規入所者の介護計画は、主に家族からの情報と要望を聞き参考にして、身体機能の現状維持と、より楽しく過ごせることを、大切にしたケアプランが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を充実して、個別性を高め申し送り時に職員間で話し合い、確認しあい実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院や老健施設と連携し、行事を共同で行うなど、多機能性を活かすよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、警察、消防、文化教育機関との協力や介護支援センターのケアマネージャー、地域包括支援センターとの情報交換などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院をかかりつけ医とし、総合的な医療を受けられ、急変時や夜間にも対応出来ることで家族の安心感を得ている。	母体医療法人が内科・皮膚科・整形外科・歯科・眼科を運営しており、全てが隣接しているという利点があるため、入所の際、主治医を系列医療機関に変更することを基本としている。ただ、病気の特異性・利用者の強い希望があれば、受診同行を家族に依頼することで、かかりつけ医の継続を可能としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が常勤しており、介護職との報・連・相に努め、必要時には併設病院に即受診出来るよう、外来看護師と情報提供や相談を常に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と診療情報や生活情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、まず併設病院へ搬送又は往診を依頼している。入居時に家族に説明しているので家族も安心されている。	病状が重度化した際は、状況に応じて協力医療機関への外来受診・往診・入院等を記した「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しており、入居契約時に本人・家族に説明して同意を得ることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	申し送り時や勉強会において、個人個人の持っておられる病気などに対して、急変したらどのようなになるか、その際まず最初にどのような処置を施すか等話し合い、対応の仕方を皆で把握し合っている。対応マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練や通報訓練を行い、広域消防本部に連絡し指導を受けている。	年に2回、法人全体の火災訓練が行われ、消火・避難・通報の訓練にホーム職員が参加している。また、ホーム独自でも入居者が参加して避難訓練を実施している。夜間は、毎夜、法人本体や、老健の当直職員等が敷地内を見回り、夜間施錠の確認や、不審者潜入防止を実施しており、ホームの夜勤職員を支えている。	夜間想定避難訓練の実施が必要かと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に努めている。声かけは「ちゃん」付けせず個人名で呼んでいる。入浴や排泄時は十分羞恥心に配慮し対応している。	新人職員には、個人情報保護の遵守に関して誓約書に署名することを求め、「新人研修プログラム」で、一人ひとりの尊重とプライバシー確保について意識を高めることに努めている。	訪問調査日、入居者の生活習慣から、トイレのドアを閉めずに排泄をする様子が見られた。本人本位だからそのままでよいのか、どのような支援が必要なのか検討することを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人個人とコミュニケーションを多くとりお互い話しやすい関係を構築し、くつろいだ雰囲気の中で本人の思いを訴えたり自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いや状態を考慮し、満足感を得てもらおうよう個別に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は希望を聞いて着る洋服を選ばせている。毎週木曜日に併設の老健施設にある理美容サービスを本人や家族の希望時利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた野菜を調理し、摂取能力に合った食形態で食べられている。自分で下膳できる方には手伝ってもらっている。準備としてはグリーンピースの豆むきやネギをそろえたり玉ねぎの皮むき、ピーラによるニンジンの皮むきなど手伝ってもらっている（毎日玉ねぎ・ニンジンは使用する）	ホームの栄養士がメニューを作成し、系列の農園で栽培された米や有機野菜等、旬の食材が使用され、入所者の状態に合わせた形態の家庭的な食事が提供されている。桜の季節は、庭にテーブルを出してお茶を楽しむ支援も実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	寒天やお茶ゼリー、フルーチェやフルーツジュース、カルピスなどで水分を補い栄養の面では治療食などについて管理栄養士の指導を受ける事もある。又、夜間はトイレ介助時など利用して水分200mlは必ず摂取させる為にも一人一人のコップと湯を準備し、申し送り水分摂取量の報告あり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごと能力に合わせた口腔ケアを行っている。歯科外来受診や歯科医の往診による口腔ケアも定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンによる時間指導や、食事前・就寝前の声かけなどで失敗を減らし排泄動作も自分で出来る所はしてもらっている。出来る限り持参のオムツ類が消耗せぬよう努力している。	時間を見計らっての声掛け・誘導で排泄の自立支援が行なわれている。排泄後は、水分補給を大切に体調管理が行われている。紙おむつや尿とりパッドは、倉庫で保管し、開封日や開封した職員の名前を記録し、在庫管理への意識を高め、家族が負担する経費への配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を朝・昼の申し送り時は必ず行っている。又、体温表にも必ず記入する様心がけている。繊維性の多い食品を食事メニューの材料に入れたり、水分を多めにとってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルサインを確認して異常がなければ自由入浴を原則としている。	入浴は3日に1回となっている。ホームが小高い位置に立地しており、浴室からの眺めもよく、庭の晩白柚の木が実るころは、皮を湯船にいれて、季節を楽しむ支援も行なわれている。	同敷地内に立地する系列老健には温泉の足湯がある。入居者も散歩の途中で立ち寄るなど工夫し、小さな気分転換の支援を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明るさや室温に考慮し、その方の状態や希望に応じて休息したり眠れる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬については薬剤師より情報を得て医師の指示により服薬し、必ず服薬確認をしている。毎日状態確認を行い、異常発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、得意な方は歌集を渡して歌っていただいたり、お手玉が上手な方には皆さんに披露してもらったり特に特技を持たない方でも皆さん一緒に玄関の外で小高い所から畑や遠い景色をみていただき外気浴をしながら楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設の行事に参加したり敷地内の動物園に行ったり、天気の良い日はひなたぼっこをしたりしている。家族面会時は一緒に外出されたり盆、正月の一時帰宅など機会作りに努めている。	母体法人や系列施設で行われる「どんどこ」や「餅つき」、「花見」等への参加はあるが、日常的な外出はほとんど見られないことから、家族や運営推進会議メンバー、地域の方々、加えて法人の支援等を得て、入居者が外出を楽しめる支援が行われることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買物が出来る方には家族にお願いして1,000円程お金を持たせて頂き売店で職員と一緒に買物をしている。お金の管理は担当のスタッフが日にちを決め残金の有無を確かめている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば先方の迷惑にならない時間帯に電話をとりついでいる。耳の遠い方はメモ紙に書いて頂き面会時に手渡すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム自体桜に囲まれているので春は玄関の外でテーブルを出して桜をみながらお茶をしたり、秋はススキを採って来てテーブルにかざったり家庭的な温もりのある雰囲気・空間作りに努めている。	入居者の集うリビングの大きな窓からは、桜の木と、広く広がる田園風景が一望でき、居ながらにして季節の変化が味わえる恵まれた環境となっている。今日の食事メニューと体操の手順等がボードに表示しており、入居者がBGMや、連続テレビ小説を楽しみながらのんびりと過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	6ヶ月に一回程度、テーブルを並べ変えたりして変化をつけ、気の合った者同士ばかりでなく一人ぼっちの方にも皆さん声かけしやすい様に全体がみえるようなテーブルの置き方にするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や今まで身近に置かれていた愛着のある物などの持込みを容認している。	家具や調度品は少ないが、行事で撮られたホームでの写真や、孫・ひ孫・家族の写真等を掲示し、窓辺には鉢植えや人形を飾って、心地よい部屋づくりを行っている。窓からは、黄色い晩白柚が実っている様子や、竹林・菜の花畑も眺められ、季節の変化も味わえる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんで頂いたり掃除が出来る方にはホウキを渡して一緒に掃除したり下膳できる方には安全に下膳できるよう気配り立位可能な人には自分の前だけでも立ってテーブルを拭いてもらったりして出来る限り自立した生活が送れる工夫している。		